

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970101188		
法人名	医療法人 仁生会		
事業所名	グループホーム 赤とんぼ		
所在地	高知県高知市万々397		
自己評価作成日	平成26年12月18日	評価結果 市町村受理日	平成27年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・民家改修型のグループホームで、共有スペース、庭、居室などは家庭的な雰囲気を大切にし落ち着いた環境づくりを心掛けている。</p> <p>・地域に根差した事業所を意識し、近所の方と交流を図る場面を多く取り入れている。また、地域の行事には積極的に参加し、グループホーム側からもイベントを行っている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=3970101188-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成27年1月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の理念は、職員全員で考え運営推進会議にも諮って作成したものであり、職員会等でケアを振り返る際には拠り所として全員で確認している。理念に基づき利用者本位にケアを考え、外出好きの利用者が多いことから、日常的にスーパーや近くの農協へ買い物に行ったり、周辺の散歩に出かけて知人と言葉を交わすほか、ドライブにもよく出かけ、月1回は利用者全員で外食に行き、季節の花見や県内の行楽地へも遠出している。外出によって地域との顔なじみも徐々に増えており、利用者の気分転換や刺激にもなって、生活の張り合いと意欲につながっている。</p> <p>管理者は、職員とのコミュニケーションを図り、職員の要望にはすぐに応えるよう努めており、必要に応じて母体法人へ要求を伝えている。利用者の加齢に伴い介護度が高くなる状況に備えて、2階の居室への移動の安全性を確保するためエレベーターの設置を本部に認めてもらうなど、利用者のニーズを常に職員全員で検討しながら、地域とのふれ合いの中でその実現に向けて努力している。</p>
--

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を共有するため、日常的に事業所の方針や、目標を伝え、各職員との共有に努めながら、日々の業務に取り組んでいる。	職員全員で考え、運営推進会議にも諮って「地域や家族とふれ合い、利用者の尊厳を守り個性や可能性に沿って本人らしい生活を送るための、心に寄り添った支援を行う」という趣旨の理念を作成し、職員会等で理念を確認しながら、職員に浸透させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様の必要物品を購入する際には、近くの商店を利用し、生活の中で地域との交流を行っている。	地元出身の利用者が多く、近くのスーパーや農協への買い物で顔なじみの住民に出会い、交流している。また、町内会総会のほか、地区の祭りやイベントを通じて地域との協力関係を作り、事業所の夏祭りやボランティアによるイベント等の案内に各地区の掲示板を利用して、住民参加につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を軸に、グループホーム便りやお知らせを回覧板に載せることなどを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組みを随時報告している。又、意見しやすい雰囲気作りにも意識し、サービスの向上に努めている。	会議では、事業所の活動報告と参加者との意見・情報交換を行い、助言を運営に反映している。防災マニュアルや地域との防災協定書の作成を議題にするなど、会議を事業所と地域を結ぶ場と捉えて活用に努めている。しかし、地域代表の参加人数が少なく、議事録への意見内容の記載が十分でない。	運営推進会議を地域との協力関係の構築やサービス評価の場としてさらに活用できるよう、地域代表の増員を検討するとともに、意見交換の内容がより具体的に伝わる議事録になるよう記載方法の工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご家族様からの相談やご利用者様の状況についてなど、疑問や問題点があればその都度連絡行い、交流を図っている。	市担当課とは、法解釈や人員基準、加算算定等の運営上の相談を行い、地域高齢者支援センターとは運営推進会議への協力や困難事例、入居に関する相談等で日常的に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送り、職員会などでケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないか、ご利用者が受ける精神的弊害への理解度はどうか話し合い、職員の共通認識を図っており、拘束しないケアに取り組んでいる。	市や法人本部が開催する身体拘束・虐待防止の研修に、職員が順次参加し、内部の勉強会では伝達講習とマニュアル学習を行って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特に、利用者を言葉で拘束しないよう全職員で注意し合っている。家族にも拘束をしない方針を伝え、ケアに伴うリスクへの理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加したり、日常的に本人に問いかけし、一人一人の意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係資料をいつでも閲覧できるように準備している。必要があれば活用できるように体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や契約時に重要事項説明書、運営規程の説明を行っている。疑問点などを言いやすい雰囲気作りを行い、確認しながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご利用者様の意見・不満・苦情を言えるような雰囲気作り、関係づくり、表情の観察に努めている。又、ご家族様などの意見の反映として年1回サービスに関するアンケートを発送している。母体病院に郵送するシステムで、ホーム便りにも掲載している。	利用者が職員に遠慮なく意見等が言えるように、職員から親しく声をかけて希望等を聞いている。家族には主として面会時に聞くほか、事業所の夏祭りや避難訓練時に、家族会を開催して要望等を聞き、家族から、洗濯の仕方や居室への持ち込み品等の具体的な意見や相談があり、それぞれに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会(月1回)、日々の申し送り時に職員が意見や提案できる時間を設けている。	職員会では分担業務の調整、利用者の重介護化に伴う業務時間の配分変更等の改善意見が出され検討している。また、管理者は職員の意見・要望等に迅速に対応し、エレベーター設置などにつなげている。人員要求についても職員意見を踏まえて、継続的に本部に要望を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会などを通じて、新しい気づき、初心に戻るような気持ちを職員で共有できるようにしている。又、法人内での人事考課制度を利用し、日頃の状況を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での職員教育計画を作成している。職員会での伝達講習の時間を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知県宅老所・グループホーム連絡会の研修などに参加し、交流を図っている。又、3カ月に1回高知市西部地域グループホーム連絡会があり、意見交換などを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の時点で十分時間を取り、ご本人様の状況把握に努めている。話しやすい雰囲気作りにも意識し、ご自宅や施設での面接を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時点で十分時間を取り、ご家族様からこれまでの状況や要望などを傾聴し、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に十分話を聞き、必要な場合はケアマネジャーや医療相談員、その他のサービスの利用についても話している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に挙げてご利用者様、ご家族様、職員が共に支え合う関係づくりを目指している。職員一人一人が環境作りや声掛けに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時は、ゆっくりとお茶やおやつを召し上がったり、散歩や外出をするなど、生活の中で関わっていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お教会の方が冊子を持って来られたり、今までの関係が途絶えないように努めている。ご友人、ご家族様などが来訪しやすい雰囲気作りにも意識している。	入居時のアセスメントで、馴染みの人や場所について聞き取り、その後把握したことは、アセスメントに追記している。利用者宅へドライブで立ち寄ったり、家族の協力で行きつけの美容院や外食に出かけ、また知人等の来訪時には居室で話しやすくするなど、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ屋根の下で自然と関係が出来ている。無理に関係を作るのではなく、自然にできた関係を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族も時々訪ねてくださる。その度、思い出話を語りながら、来訪しやすい雰囲気作りや声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時や、日頃からご本人様やご家族様の希望や意向の情報を集め、ご本人らしい生活が築けるように取り組んでいる。	アセスメントにはセンター方式の様式を利用して、利用者の思いを細かく把握することに努めている。職員が気づいた利用者の思いは、その都度個人記録に記載して共有している。意思疎通が困難な利用者には、表情や仕草から推察した思いを家族と確認したり、職員会で検討してケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、知人との思い出話などから今までの生活ぶりを把握している。又、ご家族様やケアマネジャーなどの介護関係者からも情報提供を受け、生活歴を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌、業務日誌、バイタルなどのチェック表を毎日記入し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の要望をもとに、職員の気付きも取り入れ、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。モニタリングは、2～3カ月毎を基本に行い、状態の変化があればその都度行っている。	家族には具体案を示しながら事前に意向を聞き取り、日頃の利用者の思いと合わせ、ほぼ全職員が出席する職員会でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。計画は利用者の下肢機能維持や趣味等の継続を主眼に本人らしさを重視し、管理者等によるモニタリングを実施して3又は6カ月毎の定期更新と随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況、その時の気付きなどを毎日記録している。又、業務日誌や申し送りノートも活用しながら情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制が整っており、受診等は看護師の指示のもと適切に行ったり、入院の場合は、早期退院に向けて医療機関との情報交換に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で生活していく為に、ご利用者様と近所の商店に買い物に行ったり、地域の催し物に参加し続けていく事で、理解や協力が得られるようになり、その人らしく生活を送れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿ったかかりつけ医に受診している。又、かかりつけ医が往診されている方もいる。	利用者・家族の希望により入居前からのかかりつけ医に受診している。定期通院は家族の付添いであるが、通院の継続が困難になり協力医による毎月の往診に変更する利用者もある。受診結果は家族から報告を受けて、受診記録で管理し職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制として、週1回看護師が健康管理として勤務し、何かあった場合には24時間体制で相談や対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療相談員に情報提供を行い、定期的に病状確認を行っている。又、退院前には医療関係者などとカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、意思の確認ができる体制を作っている。日頃から、出来る事と出来ない事を話し合っている。今後については、医師、看護師、ご家族様、職員などと連携を図っている。	ターミナルケアの対応方針に基づき家族に説明し、利用者の状態変化に応じてその都度家族等と相談し、意向確認書を取り直している。日頃からかかりつけ医や協力医との連携を協議し、職員は喀痰や吸引、ターミナルケアの研修を母体病院で受けて体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置の研修を受講したり、緊急時のマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年に2回、日中・夜間を想定した火災、地震などの災害に対する訓練を行っており、地域の方と共に行っている。	消防署の立会による訓練時には起震車やスモークテント等の体験訓練も取り入れ、住民に周知して参加を得ている。避難訓練には利用者や近隣住民が数人参加して、駐車場等の避難場所へ避難している。民家改修の建物であり、耐震診断を行って補強し、食糧等は屋外倉庫に1週間分を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にあるように、各ご利用者様の人格を重視し、配慮ある対応に努めている。	利用者一人ひとりの性格や、できること、できないこと、好きなこと等を把握し、それに応じた適切なケアに努めている。ケアでは、利用者の羞恥心、自尊心に配慮し、心理的な拘束にならないよう言葉遣いに気を付けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせて、開かれた質問、閉ざされた質問を利用しながら、選んでいただけるように常に意識して声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールは特に決めておらず、ケアプランにもあるように、その人らしく生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どんな服を着るのか等も、毎日ご利用者様に決めてもらっている。又、理・美容室は、行きつけのお店に行かれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物と一緒にいき、旬の食材や、新鮮な物を取り入れた食材選びをしている。その日のメニューはご利用者様と相談しながら決めている。調理や盛り付け、配膳や片付け等の一連の作業を一緒に行っている。	利用者の嗜好や季節に合った新鮮な食材を購入し、利用者の希望を聞いて、重複しないようその日に献立を決めている。調理は職員が行い、利用者は配膳、片付け等の役割を受け持っている。食べたい物が食べられることが利用者の楽しみとなり、残さずに食事している。母体病院の栄養士から栄養面の検査も受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分チェックを記録し、職員間で情報を共有している。一人一人の好みや栄養バランスにも配慮し、刻み食でも個別対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけや見守り、介助を個別に対応している。就寝時には、ポリドントにて洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、ご本人様の生活リズムに沿ったトイレ誘導をしている。失敗してしまった場合でも、周囲に気づかれないよう、ご本人様が傷つかない等の配慮をしながら対応している。	利用者のその日の排泄状況をチェックし、時間に留意して誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。自力でトイレに行ける利用者には、動作を見守り排泄の確認をしている。昼間は全員トイレを使用し、夜間はポータブルトイレも使用しながら自立を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつは繊維質の多い食品などを取り入れている。家事や散歩など、体を動かす機会を設けて、自然排便が出来るように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、日中などの希望に合わせた時間で入浴を行っている。入浴を嫌がられる方への声掛けなど、チームで入浴支援を行っている。	利用者の希望に沿って午後から入浴し、ゆったり浴槽につかって入浴を楽しんでいる。失禁等の汚れがあればその都度対応し、午前からシャワー浴等も可能にしている。入浴を拒否する利用者には、買い物や散歩、畑の土いじりなど本人に好きなことをしてもらって気分転換を図り、入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて、個別に休息を取り入れている。夜間、不眠の方には、日中の活動を多く取り入れ、安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握できるよう、勉強の機会を作っている。治療や服薬調節など状況を詳細に記録し、心身上の変化や経過状態を看護師に連絡している。薬は個別にケースに入れ保管し、ご本人様に手渡しや服薬介助を行うことで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の得意分野で力を発揮してもらえる場面を作り、お願いできそうな仕事や役割を頼み、感謝を伝えている。又、外出支援を多く行えるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望に沿って、外出を楽しめるよう取り組んでいる。又、申し出が遠方である場合には、バスでの外出計画に組み込んで、ご家族様等の参加や協力を呼び掛けている。一人一人の思いが叶えられるように、外出支援の実現につなげている。	地域とのふれ合いや気持ちのリフレッシュのため、外出支援に積極的に取り組んでおり、利用者の希望に応え、日常的にスーパー、農協等への買い物、川沿いの散歩に出かけ、月1回は全員でレストラン等での外食を楽しみ、季節の花見や観光地へも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には、買い物の際に支払いをお願いしたり、お金のある安心感や満足感に配慮し、社会性の維持につなげている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人からの手紙や電話を歓迎し、ご利用様が気軽に手紙を書いたり、電話をしたり出来るような雰囲気作り、声かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型であり、家庭的な間取り、雰囲気作りを大切にしている。季節に応じた植物なども、利用者と一緒に選んだものを植えている。光も、カーテンやブラインドで適度に調節している。	民家改修のため畳が多く、居宅での生活感があり、利用者が落ち着いて過ごせる空間になっている。窓からは事業所の畑や花壇の花づくりの様子が見え、食堂兼居間には一輪挿しに季節の花を活けて、季節感を出す工夫をしている。ソファ等も、利用者同士で団らんでできるよう配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれるよう、踊り場に空間を作ったり、テーブルの上に蛍光灯を設置して、細やかな居場所づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ご利用者様の居室には、タンスや仏壇、テーブルセット等を持ち込んで、その方が安心して過ごせるように環境づくりを行っている。	各居室には、家族の協力で馴染みの物が持ち込まれており、好みの人形や仏壇等を置いて個性的な居室にしている。ベッドやタンス等は利用者が安全に過ごせるよう、動線や高さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	至る所に手すりやすべり止め、夜間でも分かるように蛍光テープを貼っている。又、食事の際にはお盆を利用し、混乱しないように工夫している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				